

伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山

山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山

勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山

伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山

山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山

勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山

萱草之屋根

伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山

山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山

勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山

伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山

山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山 伊勢山

皇大神宮勢



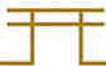
いにしへの  
姿のままに  
あらためぬ  
神のやしろぞ  
たふとかりける

明治天皇御製

## 『萱葺き屋根』

平成二十五年に伊勢の神宮で第六十二回式年遷宮が執り行われた。この遷宮で内宮、外宮の御正殿を始め神宮の全ての社殿が新しく作り替えられる。まことに異例のことであるが伊勢山皇大神宮に内宮御垣内の社殿一字が下げ渡されることとなった。神宮の社殿が伊勢山皇大神宮の新しい社殿として生まれ変わることが三百七万人横浜市民の「誇り」となればどの格別の計らいであった。神宮の社殿は素木の棟持ち柱を持った萱葺きの唯一神明造といわれる建築様式で造られている。一棟をそっくり頂けたせっかくの機会である。伊勢山皇大神宮の本殿として最大限の注意を払い原型に忠実に造替をする計画である。

明治三年、伊勢山皇大神宮創建の時に「伊勢山に皇祖の御社を勧請あれば、高麗の宮殿を創立し、国家の



創建 150 周年記念事業



神宮古殿社讓与材 運び出し



神宮古殿社讓与材受渡式

鎮護を祈り、人民をして、崇敬胆仰せしめん」と太政官に建白書を送り創建されてより平成三十二年に百五十年を迎える。この佳節を伊勢の神宮より戴き、そのままに復原した社殿で御創建百五十年の奉祝祭を齋行できることは望外の喜びである。

伊勢の地に合って二十年、さすがに屋根の萱は損耗が激しくすべて取り替えなければならぬ。木部も千木・勝男木等の直に雨が当たる部分は痛みが激しい。されど未だ二十年、柱を始め御扉・壁板は、ほんの数ミリ削れば木の香も木肌も新材に変わらない。

復原に当たっては萱葺き屋根が一番の難点となる。材料の萱の調達、萱葺き職人の確保が難しい。かつては村には入会地として萱山があり、萱葺き職人を手伝える村人もいて数年ごとに行う屋根の葺き替えには総出で手伝い、屋根替えを行ってきた。今では萱葺き屋根は姿を消し葺き替えの経験者もほぼいなくなつた。



神楽殿 地鎮祭



旧館 解体清祓式

また神宮では独自に萱山を所有し萱の確保を行なっているが、担当者の話では民家と違って神殿の萱は厳選するので一束に使用できるのは数本しか有りませんと困難さを教えられた。

平城京の寺院の遺跡の発掘調査ではかなりの量の瓦が発掘される。当時の寺院建築では屋根は瓦で葺かれていた。平安京の神社は檜皮で葺いてある。萱葺き屋根に対して耐久性があり美しさもある瓦葺きや檜皮葺きの屋根が現れても伊勢の神宮では萱葺きのままで替えられることはなかった。三十年毎の式年で萱葺き屋根で掘立て柱の唯一神明造りの社殿が継承されてきた。

ヨーロッパにはローマの遺跡が残っている。およそ二千年前の遺跡は、造られた当時の物が今に現存して伝えられている。目の前にある建造物の材料は当時の石であり粘土である。同じ形に現代の材料で造り替えでも、その価値はほとんど認められない。

## 創建 150 周年記念事業



拝殿御用材 運び出し

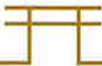


拝殿御用材 御社祭

伊勢の神宮は二十年毎に造り替えられる。建築物として最大に古くとも二十年である。古きで言えばローマの遺跡の二千年に比べるべくもない。しかし二十年毎に造り替えられることにより千数百年前の建造当時のままの建物が今この時に目にすることができると。

このたび伊勢山に神宮第六十二回式年遷宮の古社殿を神宮にある時のままに復原することは、形として垂仁天皇以来の伝承を受け継ぐことであり、材として平成二十五年の遷宮古社殿を後世に引き継ぐことである。

次の二十年には屋根替えは必須である。掘立ての柱の傷みも相当進むであろう。二十年後に形として伊勢の神宮に倣い新社殿に遷座祭を行うか、古社殿を第六十二回式年遷宮の記念として時を越えて守っていくのか伊勢山皇大神宮と横浜市民の課題としたい。



創建 150 周年記念事業



拝殿御用材



御用材保管庫 清祓式

創建 150 周年  
記念事業

神楽殿・参集殿完成予想図

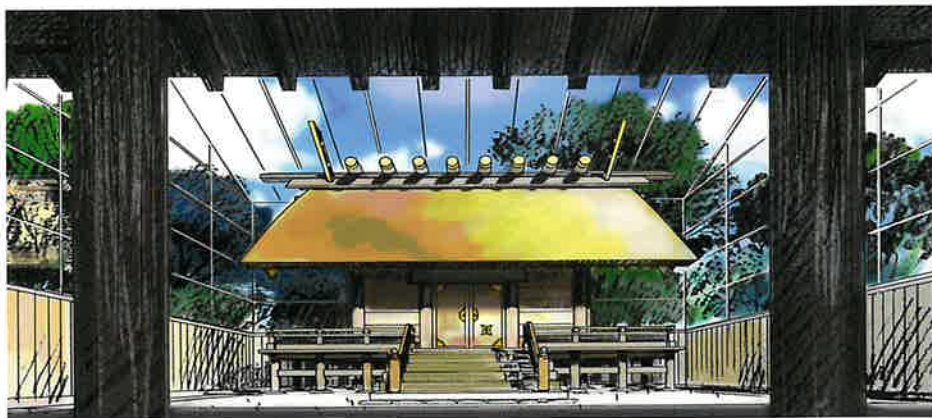
「神楽殿」は収容人数約 200 名となっており、御祈祷・結婚式等多くの参拝者にお参り頂けるようになっております。

本工事が竣工後、仮遷座祭を斎行し、「本殿・拝殿」の御造営となります。



本殿完成予想図

第 62 回式年戦遷宮にて内宮御垣内の社殿一字を下げ渡され、神宮の社殿が伊勢山皇大神宮の新たな社殿として生まれ変わります。





屋根下地



垂木打ち

## 創建 150 周年記念事業



桁・棟木組



柱建て方



柱

## 本殿 仮組み立て

第64回式年遷宮にて譲渡された御用材を約3ミリずつ削り出し、20年の月日を感じさせぬ、木の香りと木肌をみせる。伊勢の地で育んだ歴史を、横浜の地で新たな歴史を創る。



御扉裏面



屋根妻面